

世 界 史

(問 題)

2019年度

〈2019 H31133424〉

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで、問題冊子および解答用紙には手を触れないこと。
2. 問題は2～9ページに記載されている。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚損等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答はすべて、HBの黒鉛筆またはHBのシャープペンシルで記入すること。
4. マーク解答用紙記入上の注意
 - (1) 印刷されている受験番号が、自分の受験番号と一致していることを確認したうえで、氏名欄に氏名を記入すること。
 - (2) マーク欄にははっきりとマークすること。また、訂正する場合は、消しゴムで丁寧に、消し残しがないようによく消すこと。

マークする時	☒ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い
マークを消す時	☐ 良い	☐ 悪い	☐ 悪い

5. 記述解答用紙記入上の注意
 - (1) 記述解答用紙の所定欄（2カ所）に、氏名および受験番号を正確に丁寧に記入すること。
 - (2) 所定欄以外に受験番号・氏名を記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
 - (3) 受験番号の記入にあたっては、次の数字見本にしたがい、読みやすいように、正確に丁寧に記入すること。

数 字 見 本	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9
---------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

- (4) 受験番号は右詰めで記入し、余白が生じる場合でも受験番号の前に「0」を記入しないこと。

万	千	百	十	一
	3	8	2	5

(例) 3825番⇒

6. 解答はすべて所定の解答欄に記入すること。所定欄以外に何かを記入した解答用紙は採点の対象外となる場合がある。
7. 試験終了の指示が出たら、すぐに解答をやめ、筆記用具を置き解答用紙を裏返しにすること。終了の指示に従わない場合は、答案のすべてを無効とするので注意すること。
8. いかなる場合でも、解答用紙は必ず提出すること。
9. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

〔Ⅰ〕 次の文章を読み、設問 1～5 に答えなさい。

地中海東岸のシリア・パレスチナ地方は、エジプトとメソポタミアとを結ぶ通路に位置し、また良質なレバノン杉の産地として知られており、非常に初期から交易の拠点が形成されていた。エジプトでは、前16世紀にテーベを本拠地とする第18王朝が、**A** を追放し新王国を樹立した。トトメス3世は、シリア・パレスチナ地方に17回もの軍事遠征を実施し、支配権を確立したが、トトメス3世の死後、北シリアは再び **B** 王国の勢力下に入った。その後も200年ほどこの地域は、エジプトをはじめ周辺の大国の干渉を受け続けていたが、前1200年頃に「海の民」と呼ばれる人々が、ギリシア・エーゲ海地方から進出すると、この地から大国の勢力が後退したことで、セム語系民族の **C** 人・**D** 人・ヘブライ人などが活動を開始した。**C** 人は、地中海沿岸にシドン・ティルスなどの都市国家をつくり、地中海の海上交易を独占した。一方、**D** 人は、**E** を中心に内陸都市を結ぶ中継交易に活躍したため、彼らの言語の **D** 語は国際商業語として広く使用された。

設問 1 空欄 **A** にあてはまる語句は何か。記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

設問 2 空欄 **B** にあてはまる王国は何か。次のア～エのなかから該当するものを一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

ア アッカド イ ヒッタイト ウ アッシリア エ ミタンニ

設問 3 空欄 **C** にあてはまる民族は何か。次のア～エのなかから該当するものを一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

ア カナーン イ ギリシア ウ フェニキア エ ミノア

設問 4 空欄 **D** にあてはまる語句は何か。記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

設問 5 空欄 **E** にあてはまる都市は何か。次のア～エのなかから該当するものを一つ選び、マーク解答用紙の所定欄にマークしなさい。

ア イエルサレム イ パルミラ ウ ダマスカス エ アンマン

〔Ⅱ〕 以下の文を読んで、各設問に答えなさい。設問 1～3 はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークし、設問 4～5 は記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

中国史は後漢末以来、400年余りの大分裂の時代となる。すなわち、黄巾の乱の後に後漢が滅び、三国時代となった。魏は蜀を滅ぼし、その魏も司馬氏に実権を奪われ、司馬炎は晋を建国した（西晋）。晋は呉を滅ぼして東の間の統一を実現したが、まもなく内乱が起こって乱れ、その中で服属していた匈奴が自立し、晋を滅ぼした。乱を避けて江南にあつた司馬睿は、建康を都として帝位につき、晋を復興した（東晋）。これを頼って南方に移住する中原の名族も多く、江南の開発が進んだ。

西晋が滅びると、華北では諸民族や漢人の政権が次々と興亡した（五胡十六国時代）。その間、前秦の苻堅による統一が実現しかけたが、淝水の戦いの敗北を契機に瓦解し、南北対立の形勢が決まった。

江南では劉裕が東晋の禅譲を受けて、宋を建国した。宋の後は短命な王朝がつづき、結局、分裂時代は隋によって統一された。

鮮卑拓跋氏が建国した北魏では、華北を統一した太武帝のとき、^a道教に帰依し^b廃仏を行った。^c孝文帝は中国化政策を進めたが、その死後内紛が起こり、やがて東魏と西魏に分裂した。西魏は長安に都をおき、（あ）を始めたが、宇文氏に国を奪われ、北周に代わった。北周は東魏に代わった北斉を併合して華北を再統一したが、外戚の楊堅に国を奪われた。隋は南朝の（い）を併せて中国を再統一した。

設問 1 下線部 a に関連する説明で誤っているものはどれか。

- ア 黄巢の乱が起こって江南が混乱すると、唐の衰退は決定的となった。
- イ 五代の頃から江南地域で低湿地を堤防で囲んで干拓する新田開発が行われた。
- ウ 宋代の湖広は稲作の中心地となり、「湖広熟すれば天下足る」と言われた。
- エ 蘇州は絹織物業が盛んとなり、明代経済の中心地となった。

設問 2 下線部 b に関連する説明で誤っているものはどれか。

- ア 五斗米道（天師道）は太平道とともに道教の源流をなす。
- イ 仏教の普及は道教にも經典整備，教義の体系化，教団の組織化をうながした。
- ウ 寇謙之は北魏で道教の国教化に成功した。
- エ 遼代に王重陽が開いた全真教は、華北の道教を代表し、江南の正一教と道教界を二分した。

設問 3 下線部 c の政策と関わないものはどれか。

- ア 均田制 イ 三長制 ウ 洛陽遷都 エ 平城遷都

設問 4 空欄（ あ ）に最も適切な制度名を記入しなさい。

設問 5 空欄（ い ）に最も適切な王朝名を記入しなさい。

〔Ⅲ〕 次の文章を読んで設問に答えなさい。設問 1～3 はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークし、設問 4，5 は記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

当初、黄河流域に勃興した中国諸王朝が、東南アジアやインド、そして日本などとの海上交易を管理しようとし始めたのは、おおよそ唐代からであった。宋王朝は、さらに海上交易の掌握に力を入れ、この傾向は華北（北中国）を女真（金朝）に征服され、南中国にその政権基盤が移ってからより顕著となる。その後、モンゴル帝国（元朝）が中国を征服したのちも、宋王朝以来の海上交易管理制度を継承し、海上交易網のさらなる掌握を目指して東南アジアに軍事遠征を繰り返した。こうした歴代諸王朝の政策は、民間での自律的な交易の発展を前提条件としたものであったが、モンゴル帝国に続く明王朝は「海禁」政策を施行し、民間の対外交渉・海外渡航を禁止した。しかし、違法な民間交易は根絶されず、時代を下るにつれ勢いを増してゆく。そして16世紀半ば以降のヨーロッパ商人の東アジア進出は、世界的交易網に中国を組み入れ、明王朝の社会経済に極めて重大な影響を与えることとなる。そして、明王朝を滅ぼした清王朝の税制も、この影響を受けて制定されることとなる。

設問 1 下線部 a について、関連する説明で正しいものはどれか。

- ア 唐は海上交易の管理を目指し、ムスリム商人などが来航し繁栄していた泉州に市舶司を設置した。
- イ 海上交易を管理する市舶司の設置など、唐王朝の制度的基盤を確立する施策が次々と行われた時代は、「貞観の治」として後世に称えられた。
- ウ チャンパーやシュリーヴィジャヤなどの諸国では、唐との交易の進展により、王権概念や建築様式の「中国化」が起こった。
- エ 唐の国内の、長安などの交易拠点都市には、商業に従事するソグド人が多く居住した。

設問 2 下線部 b に関連して、宋代の海上交易について、その説明として誤っているものはどれか。

- ア 海上交易を管理する市舶司は、泉州・明州・杭州・密州・広州など、多くの交易都市に設置された。
- イ 主要な交易品の一つであった銅銭の大量流入は、日本などの周辺国家において、宋王朝の滅亡後でさえも「宋銭」が主要通貨として流通する事態をもたらした。
- ウ 海外交易を通じて、日本から大量の銀が輸入された。
- エ 海外輸出商品としての青磁や白磁の生産が盛んとなり、その影響を受けた朝鮮半島では独特な色調と風格の磁器の生産が始まった。

設問 3 下線部 c について、その結果起きたこととして正しいものはどれか。

- ア シンガサリ朝滅亡後の混乱に介入した元朝の軍事遠征を退けた勢力により、マジャパヒト王国が建てられた。
- イ 度重なる元朝の侵攻を退けたパガン朝は、後にその支配をマレー半島全域に及ぼした。
- ウ 度重なる元朝の侵攻に大打撃を受けた陳朝は、やがてチャンパーにより滅ぼされた。
- エ 度重なる元朝の侵攻を受けたシュリーヴィジャヤは内乱に陥り、やがてシンガサリ朝に併合された。

設問 4 下線部 d について、その経緯を必ず以下の語を用いて90字以内で説明せよ。なお、句読点は一字と数える。

ラテンアメリカ マニラ 一条鞭法

設問 5 下線部 e について、人頭税を土地税に組み込んだ清代の税制の名は何か。記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

〔Ⅳ〕 以下の文章を読み、設問に答えなさい。設問 1, 4～7 はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークし、設問 2, 3 は記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

西欧の初期中世世界では、8世紀にカロリング家支配のもとフランク王国が勢力を拡大した。カール大帝のときに教皇権と連携し「西のローマ帝国」を復活させその権威を高めたが、彼の孫たちの間で結ばれた b 条約で帝国は三分割されフランク王国は崩壊に向かった。その後は各地で貴族が封建制度を利用して自身の地域権力を固めながら抗争する時代となった。封建的主従関係はゲルマンの従士制とローマの c 制度が結びついた統治の制度で、主君が土地を封土として家臣に授与し、家臣の側は主君に軍事奉仕を行った。

だが11世紀以降、農業技術の革新により穀物生産が増加し、地中海の商業活動も活発になると、集権国家が出現し、教皇庁のもとで教会組織も発展した。この時代には教皇の主導により十字軍遠征がなされ、^d 第四回十字軍ではコンスタンティノープルを占領しラテン帝国が樹立され、西欧カトリック世界が東方にまで拡大した。だが一方で11世紀から12世紀には、^e 叙任権闘争のような国家と教会との抗争や教会を批判する異端運動も起こり、^f 西欧世界の内部では政治や宗教をめぐる様々な紛争が起こった。^g

設問 1 下線 a に関して誤りを含むものを選びなさい。

- イ ビザンツでの聖像禁止令が教皇庁とフランク王国との連携の一因である。
- ロ カロリング家のピピンは王位に就いた後、北イタリアに遠征を行い、ラヴェンナなどの領土を東ゴート王国から奪い教皇に寄進を行った。
- ハ フランク王国は統治の単位として多くの伯管区に分けられ、伯管区に国王巡察使を派遣する制度が作られた。
- ニ カール＝マルテルがトゥール・ポワティエ間の戦いでイスラーム軍を破ったことにより、西欧キリスト教世界の保護者としてカロリング家の威信が高まった。

設問 2 空欄 b に入る言葉を記しなさい。

設問 3 空欄 c に入る言葉を記しなさい。

設問 4 下線 d に関して誤りを含むものを選びなさい。

- イ ミラノは総督（ドージェ）を中心とする共和政を取ったので、都市貴族層と一般市民の間での連帯感が強まり、政治が安定したので経済的に発展した。
- ロ ヴェネツィアは「アドリア海の女王」と呼ばれ東地中海の商業交易で繁栄した。
- ハ ピサは12世紀に最盛期を迎え、ロマネスク様式の壮大な大聖堂が建造された。
- ニ ヴェネツィアなど北イタリアの商人が、地中海東岸地域に送られてきたアジアの物産品、とくに香辛料や絹織物などをヨーロッパに運び、大きな利益を上げた。

設問 5 下線部 e に関してこの十字軍を提唱した教皇を選びなさい。

- イ インノケンティウス 3 世 ロ ボニファティウス 8 世 ハ ピウス 2 世 ニ ウルバヌス 2 世

設問 6 下線部 f に関して誤りを含むものを選びなさい。

- イ 皇帝ハインリヒ 4 世は息子のハインリヒ 5 世にその地位を追われた。
- ロ 叙任権闘争でグレゴリウス 7 世は教皇首位権の確立を目指し、一方で皇帝ハインリヒ 4 世はドイツ国内での支配権の確立を目指して利害が対立した。
- ハ 叙任権闘争を終結させたヴォルムス協約は、皇帝ハインリヒ 5 世と教皇ウルバヌス 2 世との間で結ばれた。
- ニ この闘争の過程で生じた「カノッサの屈辱」とは、皇帝ハインリヒ 4 世が北イタリア山中のカノッサ城で教皇グレゴリウス 7 世の赦しを請うた事件である。

設問 7 下線部 g に関して11～12世紀に生じた異端運動に関して正しいものを選びなさい。

- イ アリウス派が三位一体論に異議を唱え民衆的異端運動を展開した。
- ロ 厳しい禁欲と善悪二元論の考えを特徴とするカタリ派がこの時期、南フランスと北イタリアに広がった。
- ハ フスがボヘミアでカトリック教会を批判する運動を始め、それがフス戦争を引き起こした。
- ニ この時期の異端運動を抑圧したのが托鉢修道会であり、その代表がシトー修道会である。

〔V〕 次の文章を読み、設問に答えなさい。設問 1, 3, 4, 6 はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークし、設問 2, 5 は記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

フランスにおける絶対王政の形成は、早くも16世紀前半のフランソワ 1 世の時代に見られるが、その絶頂期はルイ 14 世の時代である。1661 年の宰相 A の死後、ルイ 14 世は親政を開始して「太陽王」と呼ばれる黄金時代を現出し、フランスをヨーロッパの強国の地位に押し上げた。ルイ 14 世は、中央集権的な政治体制の確立を図り、経済政策としては重商主義を展開した。一方で、ヴェルサイユ宮殿を建造し、宮廷に多くの貴族や芸術家を集めて保護するなど、フランス語・フランス文化の向上に努めた。

b ルイ 14 世は軍制改革を実施し、強大な陸軍の建設に成功したが、^a 度重なる侵略戦争は、多くの国費と人間を浪費させ、フランスに莫大な負の遺産を残した。また B 年に宗教的統一のために、^c ナントの王令の廃止を宣言した。これにより、フランスの経済活動に大きな役割を果たしていたユグノーの多くが国外に亡命し、フランスの産業発展が阻害された。1715 年のルイ 14 世の死後、曾孫のルイ 15 世が即位したが、^d 絶対王政の体制は弛緩しはじめ、のちのフランス革命への道が開かれていった。

設問 1 下線部 a に関連して、フランソワ 1 世とその時代について述べた次の文の中で、正しいものはどれか。

- イ フランソワ 1 世は、イタリア戦争に介入し、ハプスブルク家の神聖ローマ皇帝カール 1 世と対立した。
- ロ フランソワ 1 世時代に、イタリア侵攻をきっかけにフランスにイタリア・ルネサンス文化が本格的に導入され、レオナルド＝ダ＝ヴィンチがフランスに招かれた。
- ハ フランソワ 1 世時代に、1527 年、フランス軍はローマを襲撃し、略奪した。
- ニ フランソワ 1 世は、1559 年のカトー＝カンブレジの講和条約に参加し、イタリアに関する権利の放棄を認めた。

設問 2 A にあてはまる人物は誰か。人名を答えよ。

設問 3 下線部 b に関連して、ルイ14世時代の文化や思想に関して述べた次の文の中で、誤りを含むものはどれか。

- イ ルイ14世は、王権神授説を主張するボシュエを重用した。
- ロ ヴェルサイユ宮殿は、フランスのバロック様式を代表する宮殿である。
- ハ ルイ14世時代のフランスには、コルネイユやラシーヌらの作家が出て、古典主義の作品を生んだ。
- ニ ルイ14世時代のフランスでは、デカルトの『方法叙説』やモンテーニュの『エッセー』（『随想録』）が発表された。

設問 4 下線部 c に関連して、ルイ14世の度重なる侵略戦争が時代順に古いものから正しく並べられているものはどれか。

- イ 南ネーデルラント継承戦争 → ファルツ戦争（アウクスブルク同盟戦争） → オランダ戦争 → スペイン継承戦争
- ロ オランダ戦争 → ファルツ戦争（アウクスブルク同盟戦争） → スペイン継承戦争 → 南ネーデルラント継承戦争
- ハ オランダ戦争 → 南ネーデルラント継承戦争 → スペイン継承戦争 → ファルツ戦争（アウクスブルク同盟戦争）
- ニ 南ネーデルラント継承戦争 → オランダ戦争 → ファルツ戦争（アウクスブルク同盟戦争） → スペイン継承戦争

設問 5 B にあてはまる年はいつか。数字で答えよ。

設問 6 下線部 d に関連して、16・17世紀フランスのユグノーやユグノー戦争について述べた次の文の中で、誤りを含むものはどれか。

- イ ユグノーはフランスにおけるカルヴァン派の呼称であり、ネーデルラントにおけるカルヴァン派はゴイセンと呼ばれた。
- ロ ユグノー戦争中の1572年に、サンバルテルミの虐殺事件が起こり、旧教徒が新教徒によって大量虐殺された。
- ハ ボーダンはユグノー戦争のさなか『国家論』を発表して、主権を有する王権による平和と秩序の回復を説いた。
- ニ 1598年、アンリ 4 世はナントの王令を発して、新教徒に信仰の自由を保障した。

〔Ⅵ〕 次の文章を読み、設問に答えなさい。設問 1～3, 5, 6 はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークし、設問 4 は記述解答用紙の所定欄に記入しなさい。

19世紀前半のヨーロッパの国際秩序の大枠を決定づけたウィーン会議は、各国の領土を再配分するとともに、市民や民衆の運動を厳しく抑圧した。この会議によって成立した政治体制は、ウィーン体制^aと呼ばれる。

しかしウィーン体制下においても、ヨーロッパ諸国では政治と社会の変化を求める運動が完全に途絶えることはなかった。また、ギリシアやラテンアメリカ諸国^bが独立するなど、国際関係にも大きな変化が生じた。そうしたなかで、イギリスは政治的、経済的な世界進出に乗り出して、ウィーン体制から距離をとるようになった。他方で、反動的なウィーン体制は、オーストリアやドイツ^eといった地域^cに重心をおくようになった。^d ^f

設問 1 下線部 a に関連して、ウィーン会議による領土や政治体制の改変として、誤っているものはどれか。

- イ イギリスはケープ植民地の領有を認められた。
- ロ ドイツでは北ドイツ連邦が新たに組織された。
- ハ ロシア皇帝がポーランド王を兼任することとなった。
- ニ スイスは永世中立国となった。

設問2 下線部bに関連して、19世紀前半のヨーロッパで起こった出来事を、時代順に古いものから正しく並べているものはどれか。

- イ デカブリストの乱 → ベルギー独立 → フランス二月革命の勃発 → フランクフルト国民議会の開催
- ロ ベルギー独立 → フランス二月革命の勃発 → デカブリストの乱 → フランクフルト国民議会の開催
- ハ デカブリストの乱 → フランス二月革命の勃発 → フランクフルト国民議会の開催 → ベルギー独立
- ニ ベルギー独立 → フランクフルト国民議会の開催 → フランス二月革命の勃発 → デカブリストの乱

設問3 下線部cに関連して、ウィーン会議の時期にオスマン帝国の支配下にあった都市として、誤っているものはどれか。

- イ ソフィア
- ロ サライェヴォ
- ハ ブダペスト
- ニ ブカレスト

設問4 下線部dに関連して、この地域の独立運動の中心を担った現地生まれの白人層を何と呼ぶか。

設問5 下線部eに関連して、19世紀前半のイギリスの政策として、誤っているものはどれか。

- イ 審査法を廃止した。
- ロ 航海法を廃止した。
- ハ 東インド会社の中国貿易独占権を廃止した。
- ニ カトリック教徒解放法を廃止した。

設問6 下線部fに関連して、19世紀前半のこの地域の状況として、誤っているものはどれか。

- イ オーストリアは同君連合のオーストリア＝ハンガリー帝国に再編された。
- ロ ドイツ地域では学生組合（ブルシェンシャフト）による政治運動が起こったが、弾圧を受けた。
- ハ プロイセンが中心となって、ドイツ関税同盟が結成された。
- ニ プロイセンでは三月革命の後に欽定憲法が發布された。

〔Ⅶ〕 次の文章を読み、設問に答えなさい。設問1, 2, 5はマーク解答用紙の所定欄にマークし、設問3, 4は記述解答用紙の所定欄に記しなさい。

18世紀末から20世紀中頃にかけて、西アジア・北アフリカの多くの地域が、ヨーロッパ列強の侵略を受け、その支配下におかれたり植民地とされたりした。そこでは、^a在地の制度や慣行などが禁止や制限の対象となっただけでなく、言語や法律の強制、伝統文化の破壊、土地の強制収用、過重な課税、裁判を伴わない処刑などが行われたこともあった。また、彼らによるキリスト教宣教や国内諸勢力の分断も同時期に行われた。これに対して、現地の人々による激しい^b抵抗運動が見られただけでなく、列強間の抗争^cも生じていた。最終的にこの地域の諸国は独立を果たしたものの、現在に至るまで、社会に深い傷痕を残しているといわれる。さらに、列強などの主導によって画定されたこの地域の^d国境線は、現在まで多くの議論を呼び続けてきた。

設問1 下線部aに関連して述べた次の文ア～エのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- ア 1830年、フランスはアルジェリアに侵攻した。
- イ 1881年、チュニジアはフランスの保護領にされた。
- ウ 1920年、シリアはフランスの委任統治領にされた。
- エ 1932年、サウジアラビアはイギリスの委任統治領にされた。

設問 2 下線部 b に関連して述べた次の文ア～エのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- ア スーダンでは、マフディー派がイギリス軍に抵抗した。
- イ リビアでは、サヌーシー教団がイタリアの支配に抵抗した。
- ウ イランでは、タバコ＝ボイコット運動が展開された。
- エ アルジェリアでは、フランスの支配に対して F I S（民族解放戦線）が結成された。

設問 3 下線部 b の例として、1881～82年にイギリス支配に抵抗したエジプトの運動を挙げることができるが、その運動の名を記しなさい。

設問 4 下線部 c の例である第 2 次モロッコ事件の舞台となった、モロッコ南部の港町の名前を記しなさい。

設問 5 下線部 d に関連して、次の文ア～エのうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- ア パレスチナは、第一次世界大戦後、イギリス委任統治のもとにおかれた。
- イ イギリスはアフガニスタンに侵攻し、英領インドとの境界を定めた。
- ウ レバノンでは、第二次世界大戦終了後、フランスの委任統治から独立した。
- エ 1991年に起こった湾岸戦争後、イラクのクルド人が難民となった。

〔Ⅷ〕 以下の図を見て、設問 1～4 に答えなさい。設問 1・3 は記述解答用紙の所定欄に記し、設問 2・4 はマーク解答用紙の所定欄に一つだけマークしなさい。

古代のギリシア人は理想的な美を追求したが、ヘレニズム以降、特に帝政ローマ以降は、美術に写実性を尊ぶ傾向が現れた。支配者が自らの肖像（彫刻・絵画）を、権力の表象とするようになる。

ローマ五賢帝の一人で、ストア派の哲学者としても知られる **A** は、自らの騎馬像をローマ中心の広場に置き（図 1）、自分が統治者であることを市民に知らしめた。ビザンツ帝国の最大版図を実現した皇帝 **B** の肖像（図 2）は、ラヴェンナ（イタリア）のサン＝ヴィターレ聖堂のモザイクに残っているが、皇帝はラヴェンナを訪れたことがない。

16 世紀ヴェネツィアの巨匠で、ルネサンスを代表する画家ティツィアーノは、スペイン王でもあった神聖ローマ皇帝 **C** の肖像画（図 3）において、皇帝の性格や心理までも描写した。

一方 19 世紀フランス、古典主義の画家アングルが描いた **D** の肖像画（図 4）は、正面性を強調し、古代風のモチーフを用いることによって、皇帝の権威を演出した。

設問 1 空欄 A に当てはまる人名を答えなさい。

設問 2 空欄 B に当てはまる人名を以下から選びなさい。

- ア コンスタンティヌス イ テオドシウス ウ ユスティニアヌス 1 世 エ ヘラクレイオス 1 世

設問 3 空欄 C に当てはまる人名を答えなさい。

設問 4 空欄 D に当てはまる人名を以下から選びなさい。

- ア シャルル 10 世 イ ルイ 18 世 ウ ナポレオン 1 世 エ ナポレオン 3 世



图 1



图 2



图 3



图 4

〔以 下 余 白〕